

園長のまなざし

第3回

アットホームな保育園

高橋悦子

保育園の朝です。

七時三十分の開園と同時に、「おはようございます」と、Kちゃん家族が元気な声を響かせて登園してきました。その声で乳児クラスの保育室にいた私は、廊下に顔を出して「おはよう。今日はみんなと一緒にいいね」と、お兄ちゃんのKちゃんと妹のMちゃんに声をかけます。「うん」と三歳のMちゃん。

「今日はママの迎え？」「ママはお仕事で遅くなる日だから、バーバの迎え」「えー、ママがいいな」「ママは明日迎えに来れるからね、今日はバーバね」「うん、わかった」

二人の会話を聞いて、私を含めお兄ちゃんも納得しました。私は家族の後ろ姿を見送りながら部屋に入ります。すると、KちゃんとMちゃんと幼児クラスの早番のS先生とのやりとりが聞こえてきました。

「S先生、おはようー」「今日の早番は、S先生であつたりー」「どうしてわかつた？」「だってS先生の



赤い自転車があったから」「今日の迎えはバーバだよ」「わかりました」

S先生と二人の会話は明るく弾んでいました。

朝の支度を、お父さん、お母さんと一緒に手際よく済ませた子どもたちは、玄関先まで両親を見送りに来て、お父さんに高い高いを要求しています。お父さんは子どもたち一人ひとりを高く持ち上げてから「じゃ、行ってくるね」。子どもたちは元気な声で「お仕事がんばってね!」と両親を見送り、保育室に戻りました。

お母さんたちの働きながらの子育ては、時間的にも肉体的にも大変ですが、子どもからの「お母さん、お仕事がんばってね!」の声援を背に仕事場に向かい、「ただいま」と帰ってくる保育園は、親になった幸せを感じるもう一つのアットホームな所なのではないでしょうか。

(元品川区立保育園園長)